



街づくりプランナー浅川によるまちづくり塾



まちなみルール

新しく家を建てるときに、街並みのことも考えて、ちょっとした工夫をしてみませんか？隣と同じものを揃えた「私の家」、道路から見る「私の家」、周辺への気配りを忘れない「私の家」。そんな視点を入れるだけで、こんなにも街並みはきれいになります。右と左の写真を比べてみましょう。

統一感のあるまちなみ

街全体に統一感を持たせるには、建物と外壁を工夫すると良いでしょう。

建物の高さや階数を揃えると街並みが揃い、お互いに日照を確保することができます。

屋根の勾配や色彩、材質など、一要素だけでも揃えてみましょう。街並みに一体感が生まれます。

建物の外壁の色彩は、周囲との調和に配慮すると街並みがきれいに見えます。原色などは刺激的過ぎる事がありますので、周囲を見渡して色を決めましょう。

道路境界沿いに連続した植栽を設けると、街全体に統一感が生まれます。さらに植栽に花が咲くものや紅葉する樹種を選ぶと、潤いある街並みが生まれますよ。



屋根の形を揃えると、落ち着いた街並みができます



植栽が続くと、街に一体感が生まれます



道路からの見え方の工夫

「壁面後退」や「隠す工夫」をすることで、通り過ぎる人々の視線を避けることができます。また皆で協調すると、街並みに一体感が生まれます。

道路と建物間にスペースをつくるようにする(壁面後退と言います)と、建物の圧迫感が和らぎ、道路からの直接的な視線も妨げられません。

隣家との間に適度な距離を作ると、お互いにプライバシーを尊重できます。また、通風や日照がよくなったり、災害時などの避難路となり、安全性が高められるメリットもあります。



壁面後退すると、樹木や生垣などを植えられます



植栽やウォール次第で街並みはさらに豊かに



物置や物干し場を設けるときは、道路側から目立たない位置に設けるか、植栽やウォールで目隠しをすると街並みが壊れません。その場合、素材を街並みにあったものにするとういでしょう。

道路に面したり、隣家に相対する窓は、開口部を狭くしたり曇りガラスにすることで、お互いのプライバシーを守ることができます。

周辺への配慮

街並みをつくるのは建物や外構の工夫だけではありません。住んでいる人々の、家の前を通る人々に対するちょっとした気遣いで、街並みは美しく変わります。

門やカーポートを設ける場合は、敷地境界や道路から後退して取り付け、道路や隣家に影響のないようにすると街並みがすっきり整います。また、開閉時に扉が道路にはみ出さないようにすると、街並みがでこぼこしません。

門や道路沿いの植栽に門灯や庭園灯を設けるようにすると、夜の街並みを演出するだけでなく、防犯面にも期待できます。



樹木の葉が伸びっぱなしでは、街並みも台無し

道路沿いの植栽は、常に良好な状態を維持することも大事です。道路や隣家にはみ出さないように気をつけるだけで、街並みはもっと美しくなります。

給湯器やエアコン室外機を目立たない場所につけたり、メーター類を門柱に組み込むと、街並みが壊れません。

半戶外空間を楽しむ

最後、街並みづくりに直接関係はしませんが、わたしが得意としている「半戶外空間のある家」の紹介をします。

半戶外空間とは「家」と「まち」の間にある空間を言います。「半戶外空間のある家」は、屋内にいながら庭の景色を楽しめる空間、屋外にみんなで食事をしたりする空間を、意識的につくりだそうというものです。アウトドアデッキやキッチンガーデンがそれにあたります。

みんなでそうした半戶外の空間をつくることも、潤いのある街並みをつくりだすひとつの方法です。



美しいまちなみをつくることは、街の資産価値を上げるだけでなく、街のコミュニケーションを活発にします。人と人とが顔をあわせて気軽におしゃべりしている風景も、美しいまちなみの要素なのかもしれません。